

## 校内教育支援センター、SSR（スペシャル・サポート・ルーム）について

誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLO プラン令和5年3月)

不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間で自分にあったペースで学習・生活できる環境を学校内に設置します。自分のクラスとつなぎ、オンライン指導やテスト等も受けられ、その結果が成績に反映されるようにします。特にSSRでは、一人一人の特性や能力、興味や感心に応じた柔軟な学習ができるようにします。

1 ねらい	学びたいと思ったときに、利用しやすく、生徒自身のペースで学習・生活できる環境を確保・整備する。	<input type="radio"/> 自立心の育成 <input type="radio"/> 精神的な支え <input type="radio"/> 登校復帰の支援 <input type="radio"/> 社会性の育成 <input type="radio"/> 不登校の未然防止 <input type="radio"/> 学習意欲の向上
		<input type="radio"/> 期待する効果として、不登校から学校復帰する段階にある児童生徒や、不登校の兆候がみられる児童生徒への早期対応など、学校内で安心して学習することや相談支援を受けることが可能となる。
2 支援体制		
(1)教室環境	① 場所 南校舎離れ（元特別支援学級） ② 個別学習エリア、コミュニティエリアの設置 ③ I C T 環境（電源、通信など）整備	
(2)担当職員	① 生徒指導実践推進教員 … S S R の管理運営を中心に行う ② 学習指導等支援教員 … 関係機関と連携、調整し、支援する ③ 町教育支援センター指導員 1名（兼務）…常駐し生徒の支援を行う	
3 運営方法		
(1)入級方法	① 生徒の状況を、職員、いじめ不登校対策委員会、S C、S S W等と相談し、S S R 利用が適切と判断した場合、学級担任が生徒、保護者へS S Rについて説明する。 ② S S R を利用する場合は、生徒指導実践推進教員に伝えた後に、保護者へ連絡してから利用を開始する。入級申込などの文書は作成せず早期支援を図る。	
(2)利用方法	① S S R の開設は 9:00～16:00 （テストや行事等の際は変動する） ② 生徒は、登下校時間、給食の有無などを決定し、自主学習などの活動に取り組む。 ③ 出席については、適応指導教室同様、登校した場合出席とする。遅刻・早退はない。 ④ 職員や専門家（S C、S S Wなど）との協議を行なながら適切な支援を行う。	
(3)その他	① I C T を活用する（オンラインでの授業参加、電子ドリル、ロイロなどのツール）。 ② 評価については、テストや成果物などを参考に行う。	

## 生徒の居場所

校内	(授業等)	校外
通常の学級		
学年室	保健室	教育支援センター サンライトルーム
学年職員	養護教諭 養護助教諭	教育支援センター指導員 【月～金 9:00～16:00】
カウンセリングルーム	通級指導教室	フリースクール デイサービス
S C、SSW	通指教C o 通級指導教員	フリースクール職員
SSR	校内教育支援センター	自宅
教育支援センター指導員	学習指導等支援教員 生活指導実践推進教員	SSW

## SSRの開設に向けて

## I. 居場所づくり

## (1) 環境面、心理面での居場所

### ① 気持ちに“寄り添う”

- 登校できたこと、継続して取り組むことができたこと、新たにできるようになったことを認め、称賛していく姿勢。
- 生徒や保護者の思いを大切にする。
- 「できた」「できなかった」に関わらず、「やろう」とした思い、「できなかった」思いに共感する。
- 生徒にとって、「安全・安心な空間」であることが第一。
- 生徒が自分の思いや考えを話すことができる時間や場の設定。

### ② “自己決定の場”の位置づけ

- 登下校の時間や活動内容を自分で選択
- 教室復帰を前面に押し出さない。
- 「決めたけどできない」日もある。一人一人に合った方法、ペースで行うことが大事。

## 2. SSRの運用方法

### (1) 登校時の動線

- ① 支援員…職員玄関に靴箱を指定。カギを持ってSSRへ。
- ② 生徒…駐輪場は職員玄関横。直接、SSRへ行き、SSRの靴箱を利用。

### (2) 利用時

- ① 生徒が入室したら、担当の職員にあいさつを行う。その後、「SSR利用記録簿」を記入し、1日のスケジュールを決める。
- ② 何か取り組めるものを持ってくる。または、取り組めることを担任等と相談し、SSR担当に伝える。
- ③ その時点で、取り組みたいと思うもの「問題集」「タブレット」などを用意し、1人でも取り組めるようにする。
- ④ 給食を利用する際は、準備・片付けをSSR担当が見届ける。
- ⑤ 給食の配膳、回収については、生徒の状況に応じて、級友に依頼したり、生徒自身が行ったり、学年室を利用するなど生徒自身が決定し、活動していく。

### (3) 活動指標

種別	状態	SSRの利用状況
0	教室で通常生活	0 利用なし
1	相談	1 相談での利用
2	一時的な利用	2 1～2時間 過ごした後、教室復帰
		3 半日～1日 過ごした後、教室復帰
		4 2～3日程度 過ごした後、教室復帰
3	教室との往来 (教室等で過ごせる時間)	5 給食や帰りの会など短時間であれば、教室で過ごすことができる
		6 好きな授業や学校行事であれば、教室で過ごすことができる
4	SSRでの生活や学習 教室との往来なし	7 ほぼ毎日 SSRに登校することができる
		8 週に1～2日 SSRに登校することができる
		9 時々 SSRに登校することができる
5	不登校	10 SSRにも登校できない

## 居場所づくり

生徒の居場所

関係職員  
校 内

特別支援教育

### ○通常の学級

### ○知的障がい特別支援学級

知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のもの

特別支援教育コーディネーター  
通級指導教室担当教員

### ○学年室

### ○自閉症・情緒障がい 特別支援学級

自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの  
主として心理的な要因による選択性かん默等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもの

### ○校内教育支援センター S S R 【月～金 9:00～16:00】

不登校やその他の理由で学校生活が困難な児童生徒が、校内での居場所を確保し、安心して学習や生活ができる環境を提供することです。  
具体的な狙いとしては、不登校の未然防止、登校復帰の支援、学習意欲の向上、自立心の育成などがあります。

S C ・ S S W  
教育支援センター指導員  
学習指導等支援教員  
生活指導実践推進教員

### ○通級指導教室

通常学級に在籍しながら、**障がいによる学習や生活上の困難に対して、個別的な指導を受けることができる**教室です。主に、軽度の障がいを持つ児童生徒を対象とし、週に数時間、通常の授業とは別に、通級指導教室で指導を受けます。障がいの種類や特性に応じて、学習上の困難の改善や、生活スキル（自立活動）の支援などを行います。

## 校 外

### ○教育支援センター (サンライトルーム)

教育支援センター指導員

学校を長期にわたって欠席している児童生徒が再び学校へ登校できるよう、家庭・学校・関係機関等と連携を図りながら、児童生徒の「心の居場所」を確保し、さまざまな活動を行う場として「サンライトルーム」を開設しています。

### ○フリースクール

フリースクール職員  
ひる学校

学校に通えない、または学校以外の学びの場を必要とする子どもたちのために、民間の団体が運営する教育施設のことです。学校のような決まったカリキュラムや時間割にとらわれず、子ども一人ひとりの状況やペースに合わせて、学習や体験活動、相談など、さまざまなサポートを提供します。不登校の子どもたちの居場所として、また社会とのつながりを築くためのサポートの場として、重要な役割を担っています。

<https://commulab.jp/magazine/hirugakko/>  
による学校  
<https://commulab.jp/activities/yoruschool/>  
Triple A  
<https://triple-a-free-school.jimdofree.com/>

ひなた (36-6566)  
たいよう (52-3873)  
かれじ三股 (77-1574)  
あさって (77-4666)  
あさひがおか (36-7227)

### ○放課後等デイサービス

障害のある就学児童（小学生、中学生、高校生）が、学校の授業後や休業日に利用できる福祉サービスです。放課後や長期休暇中の居場所を提供し、個別の発達支援や集団活動を通して、自立支援や社会との交流を促進することを目的としています。

### ○自宅

S S W  
オンライン学習（トライなど）

